

# 湘南国 滑藝新聞

Kokkeishinbun

2015 2/14

vol. .... 2

文科省不認可  
湘南国立大学校機関紙  
TEL 080-9083-3095  
MAIL info@shonankoku.jp  
フェイスブック facebook.com/shonankoku  
ブログ shonankoku.jp

## 湘南国立大学校の校章決まる！ 牧野伊三夫画伯の名作

画家の牧野伊三夫さんは実に不思議な人物である。あるときは『暮らしの手帖』の表紙絵、挿絵を描いたかと思うと、加藤陽子の名著『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』の表紙絵を画いたりもする。かと思えば、桐野夏生の「ただセックスがしたいだけ」の挿絵を描く自在・異色の画家である。

また、あるときは同人誌『四月と十月』の編集発行人、北九州市の情報誌『雲のうえ』の編集委員だったりもする。アルミの弁当箱に絵を画いたり、おひつに画いたり、まあ、多彩。しかし、だからといって器用な絵などではない。私の観るところ、牧野さんの絵は苦悩の産物、絵に殉じる覚悟と祈念に満ちているのである。そういう気配の充満した校章を牧野さんにプレゼントしてもらった。

校章の画案は松と太陽と海辺でもあるのだろうか。ゆつたりと、どこへ向かうかも知れぬ時が流れているこの風景には、平安が宿っている。私たちの情報発信の場「湘南国」は、この絵を

持ったことで百万の味方を得た。国境とか、金儲けとか、猜疑心とか、詐欺などという下品な言葉たちとは無縁の、考える人たちの暮らしが広がる場所の「フラッグシップ」。私たちの宝物。牧野画伯、ありがとう！



湘南国立大学校

© Makino Isao

国境とか、金儲けとか、猜疑心とか、詐欺などという下品な言葉たちとは無縁の、考える人たちの暮らしが広がる場所の「フラッグシップ」。私たちの宝物。牧野画伯、ありがとう！

### 開校のことば

あなたがすることはほとんど無意味であるが、それでもしなくてはならない。そうしたことをするのは、世界を変えるためではなく、世界によって自分が変えられないようにするためである。ある人物はそう述べました。またその人は、生は死から生じる。麦が芽吹くためには、種子が死なねばならない。とも述べたのでした。これらのことば、つまりこれらのことばの根本にある考え、それらをわたしたちは本学開校の「ことば」にしたいと存じます。

1月22日(木)、湘南国立大学校校長と事務局が平塚市役所の記者クラブで記者発表を行いました。その内容を『朝日新聞』『毎日新聞』『東京新聞』をはじめ、地域紙『湘南ジャーナル』等が大きく掲載しました。会見で和多田校長は湘南国立大学校開校の理由を「大人の本物の遊び場をつくりたかった。大人の『ゴッコ』という感じ。道の一級の方々にお願ひしたので、一緒に人生の視界を拓げましょう」とコメント。「まずは1年がんばってみたいと思えます」と述べ、「湘南国」には国境がないので、日本中、世界中でも講座を開催したいと将来の抱負を話しました。

## 湘南国立大学校の活動を新聞各紙が掲載！



▲『朝日新聞』1月24日 ▲『毎日新聞』1月23日 ▲『東京新聞』1月28日 ▲『湘南ジャーナル』NO.1651 (1月30日発行)

## 記念すべき第二回目の講座 盛況御礼！

津田美奈子さん「お母さんのための東洋医学講座」に、30名を超える受講者が来場！



▲笑い声が響く楽しい講座となった

湘南国立大学校の第一回目の講座が1月24日(土)、鍼灸あん摩マッサージ指圧師・津田美奈子さんによって行われました。題して「お母さんのための東洋医学講座」。会場となったカフェと雑貨の店「マグネット」(天磯町大磯2052)には、ご夫婦や子ども連れのお母さんなど30名を超える受講者が集まり、和やかな雰囲気の中で講義がはじ

まりました。「スキントッチの大切さ」や「肌に見える不調のサインを学ぶ」といった座学から、肩こりや子どもの便秘、下痢、夜泣きなどに効くツボの実演まで盛りだくさん。家庭でも簡単・容易に実践できるとあって、受講者からは施術のポイントや注意点などについてたくさん質問があり、大盛況のうち津田さんの第一回講座は終了。津田さんによる「お母さんのための東洋医学講座」第二回は2月28日(土)、第三回は3月28日(土)に開催されます。場所は前回と同じ「マグネット」。たくさんのご参加をお待ちしています！

2月15日(日)からは、女優・斉藤とも子さんによる「朗読とお話(全二回)」の講座を開催します。テレビや映画、舞台上で活躍する斉藤さんが心に残る作品を朗読し、女優という生き方について語りかけます。日々の暮らしに忙しい私たちに生きるヒ

### 2月15日「朗読とお話」



▲斉藤とも子さん

▼詳細は4面へ。

### 3月1日「歌舞伎ノゾキ見る」

3月1日(日)から、岸本明子さんによる「歌舞伎ノゾキ見る(全三回)」という講座がはじまります。「敷居が高く感じる歌舞伎ですが、本来は庶民的なエンターテイメント



▲岸本明子さん

であり、笑って泣いて楽しむもの」と岸本さん。歌舞伎の素人だった岸本さんが楽屋に入り込むようになり、そこで見聞きしたことを中心に、歌舞伎を気軽に楽しむための基礎知識を伝授します。歌舞伎を一度や二度は観ないと、ネ。第一回の会場は大磯町立図書館、前売り1500円(当日2000円)。

▼詳細は4面へ。

〈湘南国立大学校開校記念トークライブ〉

牧野伊三夫(画家) × 和多田進(本紙編集長)

世の中に自分を換えられないために [続]

湘南国立大学校の開校式(2014年11月5日)で行われた  
画家・牧野伊三夫さんと当校校長のトークライブの続編をお送りします!



▲和多田進 ▲牧野伊三夫

美しくなければ、  
雑誌じゃない

**和多田** この湘南国立大学校で  
牧野さんにも一緒に遊んでも  
らいたいと思っています。牧野  
さんの絵をみんなに観てもら  
う機会をつくったり、雑誌を一  
緒に作れないかとも考えてい  
ます。

というのは、雑誌はやはり美  
しくなければダメだと私は思  
うんです。近ごろは面白けれ  
ばいいという風潮ですが、どう  
考えても雑誌は美しく、かつ  
面白くなければいけない。例え  
ば、牧野さんがやっている『四  
月と十月』のようではなくちや。

**牧野** 『四月と十月』は年に2  
回定期的に原稿を集め、それ  
を綴じて配っている同人誌で  
すが、雑誌をつくるにしてもそ  
の意味を決める必要があると  
思います。

ぼくたち美術家はふだん一  
人で作品をつくっているんで、  
『四月と十月』にはそんな作家  
たちを一つの本の中に集め、い  
わゆる断面図を見せ合おうと  
いう意味合いがあります。

もう一つ、『四月と十月』には、  
この同人誌に掲載するための  
作品をつくってはいけないとい  
う決まりがあります。つまり、  
個展やギャラリー、美術誌で発  
表して評価を得る前の段階、マ  
グマが噴き出す前の混沌とし

たカオスの状態を見せ合って  
交流しようということ。でも  
まあ、じつはその段階で仕事  
がしつかりできていなければ、  
あるいは人間がちゃんとして  
いなければ、なにを発表しても  
ダメなんです。つまり、内側の  
充実を図っていかうというの  
が『四月と十月』の意味で、和  
多田さんが面白いと思われて  
いるのもその部分ですよ。

**和多田** そう、アフターじゃな  
いんですね。

**牧野** アフターになると非常  
に複雑になってきます。出版社  
の事情でつくられた美術出版  
物は非常にセンセーショナル  
だったり話題性があったりす  
るし、なんでもないものを記者  
や批評家が大きく書き立てた  
りする。アフターは作家以外  
の人たちがつくり上げていく

世界です。これまではビフォー、  
つまり外部の色がついていない  
部分で作家が交流する場がな  
かった。それをつくろうという  
のが『四月と十月』です。

**和多田** よく分かります。私  
がつくろうとしている雑誌の  
ようなものも300部しか印  
刷しないつもりです。

**牧野** ずいぶん少ないですね。  
もうちょっとつくりましょ  
う(笑)。

**和多田** しかも絶対に売れな  
くていいんです(笑)。

コンセプトは「自分たちのための雑誌を作りたい」

れないためになにか無意味な  
ことをやる」とありますね。あ  
れは、すごい言葉だと思います。  
あの言葉をコンセプトにして  
はどうですか。

**和多田** 「なんとか宣言」とい  
う力の入ったものではなく、根

本的なことを言葉にすることに  
でみんなの共通の考えにした  
いと思って書いたのが開校の言  
葉です。ジカに世界を換えよ  
うと言うことも可能ですけど、  
そうではなくて世界に自分を  
換えられないために無意味な  
ことをやる。じつは、それ  
がとても大事だと思うんです。  
結着点は同じことなんですけ  
どね。

**牧野** いま、みんながそう思っ  
ていると思います。11月19日か  
ら大阪で展覧会をやるんです  
が、それは林業再生を中心とし  
たまちづくりを考える大分県  
日田市のグループ「ヤブクグリ」  
の活動をテーマにした展覧会  
です。戦後、国は復興のための木  
材需要を受け林業をやって木  
を植えると言ったのに、いまで



湘南国立大学校(文科省不認可)  
分校一覧

(2015年2月14日現在)

Dining Café NINO

神奈川県中郡二宮町二宮823  
☎0463-717-9555  
営業時間●11:30~18:00(平日)  
13:00~18:00(土)  
定休日●日月祭

カフェぶらっと

神奈川県中郡大磯町大磯12304  
☎0463-620-0020  
営業時間●13:00~18:00(月木)  
12:00~18:00(火金)  
定休日●水土日

和泉常 老舗食料品店

神奈川県中郡大磯町大磯1130  
☎0463-611-0065  
営業時間●9:00~19:00  
定休日●月

マグネット(カフェ)

神奈川県中郡大磯町大磯11302F  
☎050-1168-9779  
営業時間●11:00~19:00  
定休日●月第1第3火

ポタンカフェ

神奈川県平塚市袖ヶ浜17-61  
☎070-5078-6678  
営業時間●11:00~19:00  
定休日●水

オヴェストイゾラ(イタリアン)

神奈川県平塚市松風町30-16  
☎0463-211-5528  
営業時間●11:30~15:00  
17:30~22:00  
定休日●月

Ristorante la ROCCA(イタリアン)

神奈川県中郡二宮町山西916-1  
☎0463-265-6778  
営業時間●11:00~14:30  
17:30~21:30  
定休日●水

カフェパンセ(カフェ)

藤沢市鶴沼橋1-116  
☎0466-235-0009  
営業時間●10:00~23:00(金土)  
10:00~21:00(月日祭)  
定休日●第1第3火

湘南国立大学校(文科省不認可)  
用務員一覧

(2015年2月14日現在)

- 古株均(東京都港区)
- 大沢まり(東京都千代田区)
- 川本兼(神奈川県中郡)
- 小林耐子(長野県小諸市)
- 小松原香織(神奈川県中郡)
- 曾根田洋子(神奈川県中郡)
- 小林桂子(神奈川県藤沢市)
- 湯川新(神奈川県藤沢市)
- 龍昇(東京都新宿区)
- 伊藤裕作(東京都新宿区)
- 鬼久保昌子(長野県佐久市)
- 相良治子(長野県小諸市)
- 山極松子(長野県小諸市)
- 田中たま子(長野県小諸市)
- 小松登美子(長野県小諸市)
- 金井キミ江(長野県小諸市)
- 小山眞一(長野県小諸市)
- 五十嵐三三男(長野県小諸市)
- 塩川光子(長野県小諸市)
- 金子英一(長野県小諸市)
- 平木美智子(兵庫県神戸市)
- 上村盛人(神奈川県中郡)
- 桑原奈穂子(東京都世田谷区)
- 鈴木美里(東京都世田谷区)

は安価な輸入材が主流になって日本の林業は宙ぶらりんになり、山は荒れ、かつて林業で栄えた町は閑散としている。

一方、都市では駅前古本屋や定食屋がなくなり、無機質な街並みがつぎつぎとつくられていく。知らないうちに人情のな町や小さな商売ができる町が減っていき、知らないうちにいろんなルールができていく。自分の好きな方向に世の中が進んでいないということにみんな気づいている。でも、どうしようもなく、そこにどうい希望を描けばいいのか、だれかに教えてほしいと思っている。

そういうふうにとんどん押し流していく大きな力とはなんなのか、心を通わせる村や町というものが消えていくのをただ見ているしかないのか、と原発もそうした問題の一つだと思います。

和多田 原発については、小説家の大西巨人さんが2014年3月に亡くなる直前に言った言葉の意味を、私はずっと考えてつづけています。思想家の吉本隆明さんは原発に賛成でしたが、大西さんはずっと原発反対の立場でした。ところが、亡くなる直前に発表した「原子力発電に思うこと」という短いエッセイで、「これまで私は、原子力発電に反対するものであったが、このたびの天変を経験することによって、賛成の立場に転じた。即ち現在の私は、たとえば吉本隆明が原子力発電に賛成であったのと同じく——あるいはより強く——原子力発電に対し

そのとき、戦争はフリーパスになる

て賛意を抱いているのである」という私にとっては謎の言葉を書いたんです。しかも、「福島第一原発の異変は、地震及び津波という天災によって招来せられた。仮にその関係が実は逆であり、今回の天災が原子力発電の結果として惹き起こされたものであることが証明せられたとするならば、私の反対の考えはなお一層強まるであろう」と書いています。



写真説明 ▶ イタリアのボローニャはヨーロッパ最古の総合大学、ボローニャ大学の所在地である。ダンテやコペルニクス、パゾリーニも在籍したこの大学は、町を大学にしてしまったような大学なのである。チネチッタと呼ばれる世界中の古いフィルムの修復を引き受ける映画芸術の町としても知られる。美食の町としても有名で、ラザーニアはこの町を代表するパスタだ。この町のどまん中にそう大きくもない広場がある。昼は子どもたちやベビーカーに赤ちゃんを乗せた母親たちが日なたぼっこを楽しみ、夜は恋人たちが愛をささやく。その広場中央にあるのが写真の像。人びとは芸術の中にはエロティシズムがなければならないことを知っているのだから、この人たちにエロティシズムは生命と同義なのだろう。そこが、「ブンカ」「ブンカ」と覚えてたの言葉を呪文のように唱えるだけのエッセイテリが徘徊する悲しきわが湘南国とは大違いのところか。

なにか意味があるんじゃないか。この数ヶ月間ずっと考えていました。辿り着いた私なりの結論はこういうことです。人間は科学技術の便利さを追求め、常にそれを乗り越えてきた。だから、原発がダメだと言ふのなら、原発を乗り越える技術を人間の力でつくり出すしかない。なぜなら人間は原発というものを自らつくり出してしまったのだから。人類が原発の危険を乗り越える技術をつくり出せないとしたら、人類は滅びるしかない。科学技術の便利さを追求めた結果として、人間はそれを甘受する他はない。

大西さんの言いたかったことはそういうことじゃないかと、いまの私は思っています。死ぬまで考へつづけること 和多田 そんなふうに見えるのと、とても恐ろしいことが日々進行している。牧野さんが言うように、みんな心ではなぜこれを止められないんだらうと思っ

ていられない。見つけているうちに私たち人類そのものが滅びていく。そういう選択をずっとつづけている可能性はあるんです。もしそうだとしたら、さて、これから私たちはどういうふうにかえ、生きなければいけないかという問題があると思うんです。 和多田 コンピュータを無視することはできない時代ですが、しかしあえて紙の雑誌をつくり、人から人への手配りをつけていく。コンピュータの情報伝達力には到底かなわない。でも、そうしなければいけない意味を考えていかなければならないと思うんです。 牧野 コンピュータを否定するわけではありませんが、コンピュータ上の人とのつながりやコミュニケーションは眼で見ても確かめるだけの世界で、ほくら人間が本来持っている手触りや匂い、ひそかな音を耳が嗅ぎ取るといった感覚が失われていく気がします。そんないまだからこそ、手触りや匂い、ぬくもりを感じられる紙の雑誌は大切だと思います。 和多田 そういうものが失われたとき、原発も戦争もフリーパスになると私は思っています。だからこそ、世界に変えられないために自分の考えをしっかりと持つ必要がある。結論は出ないだらうけど、それでも死ぬまで考へつづけることが大事だと思っ

用務員 大募集!

湘南国立大学校では、用務員という名の応援団員を募集しています。用務員といいますが名ばかりではありません。報酬はありません。仕事は①思いついたら、適当な人にこの大学校の存在を知らせていただき、「応援してます!」と言ってくださること。②ヒマなときに大学校のブログをそっとのぞいてくださること。③用務員としてお名前と居住の地域を公表させていただくことです。以上の件、ご了承願いますようなら事務局までご一報下さい。また、お知り合いの方でこのゴッゴを面白がってくださる方がおられましたら、その方の承諾を得て、ご一報下さい。なお、公表される氏名と住所の例は以下の通りです。例:山田太郎(東京都品川区)/渡股好良(神奈川県中郡)/道端石草(山形県川西町)

湘南国立大学校 講座スケジュール(2月~4月中旬)

※詳細は4面をご覧ください。

- 2月 2月15日(日) 13:30 齊藤とも子さん「朗読とお話(第二回)」[大磯郷土資料館]
2月21日(土) 13:30 齊藤とも子さん「朗読とお話(第二回)」[大磯町立図書館]
2月25日(水) 19:00 原芳市さん「写真をめぐる冒険(第二回)」[会場未定]
2月28日(土) 13:30 津田美奈子さん「お母さんのための東洋医学講座(第二回)」[マグネット]
3月 3月1日(日) 13:30 岸本明子さん「歌舞伎ノゾキ見る(第二回)」[大磯町立図書館]
3月7日(土) 13:30 牧野伊三夫さん「牧野伊三夫のエロスの世界(第二回)」[会場未定]
3月11日(水) 19:00 原芳市さん「写真をめぐる冒険(第二回)」[会場未定]
3月12日(木) 13:30 岸本明子さん「歌舞伎ノゾキ見る(第二回)」[大磯郷土資料館]
3月15日(日) 13:30 町田康さん「町田康さんと本を読む(第二回)」[大磯郷土資料館]
3月22日(日) 15:00 藤井貞和さん「あなんじゅばすさん」[こはをうたうバンド「あなんじゅばす」コンサート+スペシャルゲスト・藤井貞和(朗読)「すれんじぶる」]
3月25日(水) 19:00 原芳市さん「写真をめぐる冒険(第三回)」[会場未定]
3月28日(土) 13:30 津田美奈子さん「お母さんのための東洋医学講座(第三回)」[マグネット]
3月29日(日) 13:30 岸本明子さん「歌舞伎ノゾキ見る(第三回)」[大磯町立図書館]
4月 4月8日(水) 19:00 原芳市さん「写真をめぐる冒険(第四回)」[会場未定]
4月11日(土) 13:30 倉澤治雄さん「未来への負の遺産」原芳市「ミを考へる(第一回)」[藤沢カトリック教会]
4月22日(水) 19:00 原芳市さん「写真をめぐる冒険(第五回)」[会場未定]

# 湘南国立大学校 講座内容とスケジュール

前売りのお申し込みは講演前日15時まで。  
TEL 070-5078-6678 (ポタンカフェ) FAX 0463-73-6013  
080-9083-3095 MAIL info@shonankoku.jp

## 津田美奈子さん

治療室ナチュレ室長。鍼灸あん摩マッサージ指圧師。自身の出産経験から小児鍼灸(大師流)を学ぶ。

### ●お母さんのための東洋医学講座

子どもが出す身体の不調を知らせるサインをいち早く察知して、適切な対応ができる親になろう。でも、親になるって、思っているほど簡単じゃないかもよ。

- 第二回 舌診断で舌に現れる身体の不調を学ぶ 2月28日(土) 13:30~
- 第三回 家族の病気を防ぐツボ療法 3月28日(土) 13:30~
- 場所 : マグネット(大磯町大磯1130-2F)
- 受講費 : 前売り1000円/1回(当日1500円)

## 原芳市さん

写真家。1948年東京生まれ。『ぼくのジブシー・ローズ』で第十七回準太陽賞受賞。

### ●写真をめぐる冒険

写真があふれるこの時代に、写真とは何か? を自問することは無意味ではないだろう。あなたの写真観を根本から揺さぶらずにはおかない全5回の知的冒険。

- 第一回 写真家は永遠でないものを永遠にする。『ストリッパー図鑑』を見ながら。 2月25日(水) 19:00~
- 第二回 写真家は目に見えないものを見ようとする。『曼荼羅図鑑』を見ながら。 3月11日(水) 19:00~
- 第三回 写真は神秘、不思議、しかもエロティシズムが宿っていないといけない。『現の闇』を見ながら。 3月25日(水) 19:00~
- 第四回 写真は現実を借りて虚構を作り、普遍で深淵な物語となる。『光あるうちに』を見ながら。 4月8日(水) 19:00~
- 第五回 撮影行為は祈りであり、対象に憑依する。『常世の虫』を見ながら。 4月22日(水) 19:00~
- 場所 : 未定
- 受講費 : 前売り1500円/1回(当日2000円)

## 岸本明子さん

フリーランスライター。1971年東京生まれ。2010年から三代澤村宗之助の後援会運営に関わる。

### ●歌舞伎ノゾキ見る

梨園とはまた別の歌舞伎役者の世界を知ってこそ、歌舞伎の本当の面白さが分かるのです。どの回かに宗之助が登場するかも!

- 第一回 一度歌舞伎に行ってみる 3月1日(日) 13:30~
- 第二回 歌舞伎公演をする方法 3月12日(木) 13:30~
- 第三回 歌舞伎役者という人たち 3月29日(日) 13:30~
- 場所 : 第一回 大磯町立図書館、第二回 大磯郷土資料館、第三回 大磯町立図書館
- 受講費 : 前売り1500円/1回(当日2000円)

## 牧野伊三夫さん

画家。1964年生まれ。「暮しの手帳」の表紙・挿絵。同人誌「画家のノート・四月と十月」の編集長。

### ●牧野伊三夫のエロスの世界

画家は世界のどこを、何をみているのか。その秘密を感じるための公開お絵かき。

- 第一回 牧野伊三夫のエロスの世界(ライブペインティング) 3月7日(土) 13:30~
- 場所 : 未定
- 受講費 : 2000円(当日2500円)

## 倉澤治雄さん

ジャーナリスト。1952年生まれ。元日本テレビ政治部長。著書に「原発ゴミはどこへ行く?」等。

### ●未来への負の遺産~原発ゴミを考える

原発に反対する人も賛成する人も、避けては通れない核廃棄物の問題をいまいちど考えてみる。

- 第一回 未来への負の遺産~原発ゴミを考える~ 4月11日(土) 13:30~
- 場所 : 藤沢カトリック教会
- 受講費 : 1500円(当日2000円)

## 町田康さん

小説家。1962年生まれ。パンクミュージシャンとしても活躍。「きれぎれ」で第123回芥川賞受賞。

### ●町田康さんと本を読む

今回のために町田さんが選んだ本を一緒に読んでみることで、どんな読書世界が広がるか人体実験をしてみよう。

- 第一回 町田康さんと山下澄人作『ルンタ』(講談社)を読む(『ルンタ』を読了後ご参加されることをおすすめします) 3月15日(日) 13:30~
- 場所 : 大磯郷土資料館
- 受講費 : 2000円(当日2500円)

## 斉藤とも子さん

女優。神戸市出身。1976年デビュー。井上ひさし作「父と暮せば」、映画「ひめゆりの塔」等に出演。

### ●朗読とお話

映画、テレビ、舞台上で活躍する女優とはいったい何者か。作品から人生を学ぶ女優の生き方を知りたい。

- 第一回 今、ここにいる不思議 朗読『ある少年の体験記』 2月15日(日) 13:30~
- 第二回 先人の声を聴く 朗読『父は空 母は大地』 2月21日(土) 13:30~
- 場所 : 第一回 大磯郷土資料館、第二回 大磯町立図書館
- 受講費 : 前売り1500円/1回(当日2000円)

## 藤井貞和さん

詩人、日本文学(おもに古典)研究。詩集『ことばのつえ、ことばのつえ』、詩論『人類の詩』など。

## あなんじゅばすさん

1996年結成。正岡子規の短歌から谷川俊太郎の現代詩まで100年の「ことばをうたうバンド」。

### ●ことばをうたうバンド・あなんじゅばすコンサート +スペシャルゲスト・藤井貞和(朗読)

日本古典文学研究の泰斗かつ詩人である藤井貞和さんをお招きして、詩を音楽にするとどうなるかという魂の実験劇場を開催します。ことばと音の饗宴の第一弾!

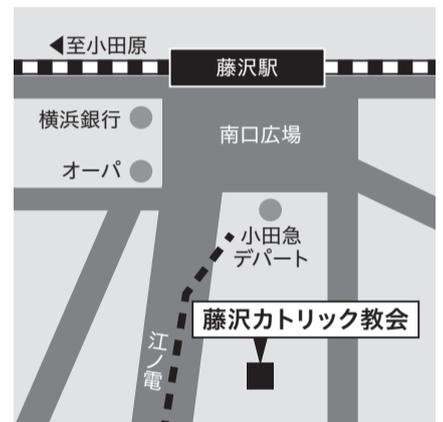
- 3月22日(日) 15:00~
- 場所 : すとれんじふるうつ(大磯町東小磯151)
- 受講費 : 前売り3000円(当日3500円)

#### マグネット



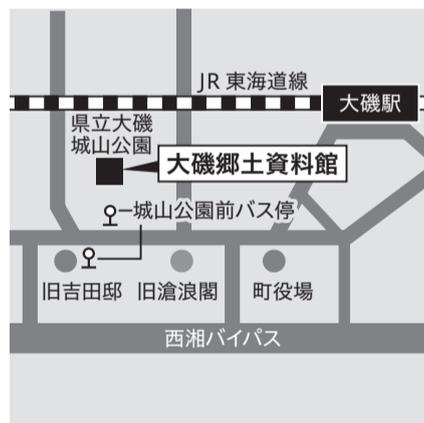
神奈川県中郡大磯町大磯1130-2F  
▶JR東海道線「大磯駅」より徒歩3分

#### 藤沢カトリック教会



神奈川県藤沢市鶴沼石上1-1-17  
▶JR東海道線・小田急江ノ島線「藤沢駅」より徒歩3分

#### 大磯郷土資料館



神奈川県中郡大磯町西小磯446-1(県立大磯城山公園内)  
▶JR東海道線「大磯駅」よりバス(二宮駅行、国府津駅行、湘南大磯住宅行)で「城山公園前」下車徒歩5分

#### 大磯町立図書館



神奈川県中郡大磯町大磯992  
▶JR東海道線「大磯駅」より徒歩2分

## 柳本真弓さんの講座に多数来場!



▲柳本真弓さんの講座風景

キレイと健康は気血水のめぐりから。才色兼備で業界内外から引っ張りだこの鍼灸師・柳本真弓さんを講師に迎え、「めぐりのいい体のすずめ&ツボ体験」と題した講義が大磯のカフェマグネットで行われました。気血水の分かりやすい解説から一瞬で体が軽くなるツボ押しの実技まで、東洋医学的思考の入り口へ楽しく案内する講義は大好評でした。そして、なにより受講者のみなさんが驚いたのは柳本真弓さんの肌のツヤと美しさ! 次回は美の秘訣についてお話していただくかしら。